

親子でけん引、もっと増やそう小国の和牛を！

－ 和牛増頭に賭けた白い森おぐにの挑戦者 －

遠藤 和彦・寛壽（小国町）

1 受賞者の概要

父 和彦氏が和牛肥育部門、長男 寛壽氏が和牛繁殖部門を担当。現在、肥育牛21頭、繁殖牛140頭（子取用雌牛80頭）を飼育。

また、小国町内の和牛増頭に向け、町内畜産農家と関係機関をメンバーとする「白い森の国和牛増頭構想協議会」を平成28年4月に設立し、父和彦氏が代表に就任。

親子で和牛増頭活動をけん引している。



左から父 和彦氏、長男 寛壽氏

2 活動内容

(1) 家族経営での和牛部門の分業化

和牛生産を、部門担当制とし肥育と繁殖部門の分業化を図っている。

独立採算制とし繁殖部門拡大に向け、優良雌牛は次期繁殖牛として育成。

寛壽氏の主体性を尊び、経営と責任を任せることで、計画目標の早期達成を実現した。

(2) 「白い森の国和牛増頭構想協議会」の取組み

平成28年度に設立した「白い森の国和牛増頭構想協議会」において、和彦氏が会長、寛壽氏が構成員となり、本町和牛生産における主要活動を親子でけん引。遊休農用地での簡易草地化や和牛放牧等の活動を普及し、小国町内の繁殖牛が増頭した。

(3) 遊休農地解消に貢献！和牛簡易放牧、稲WCS自給飼料生産

自給飼料確保のため各圃場に堆肥を散布し生産性を高め、良質粗飼料生産と低コスト化を実現した。また、遊休農用地において「電気牧柵」設置による和牛簡易放牧を行うことで、採食により農地として復元。鳥獣被害も減少し景観も良くなるなど、地域住民からも歓迎の声が寄せられている。

3 今後の発展方向

家族経営を基本に和牛繁殖肥育一貫経営の強化を図りつつ、「遠藤ブランド」の牛肉を直接消費者に味わってもらおう将来構想も視野に、本年10月に1戸1法人となる「株式会社 遠藤畜産」を創設した。

また、「白い森の国和牛増頭構想協議会」の活動を通じて、和牛増頭により小国町内の農地保全、遊休農地解消のみならず、国道113号線にある「道の駅」に隣接した和牛放牧の将来構想など、和牛を観光資源とした地域活性化にも貢献したいと考えている。